

## 令和2年度 教育民生委員会行政視察報告

### ●参加委員

委員長 中野 光昭

副委員長 野村 雄太郎

委員 倉重 浩、湊 和久、重見 秀和、瀧川 勉、其原 義信、伊藤 斉、  
大田 たける

### 1 視察年月日

令和2年7月29日（水）

### 2 視察先及び調査事項

・二島小学校、阿知須小学校

「授業でのICT機器の利用状況、エアコンの設置及び利用状況について」

・阿東保健センター、アカシア工房

「委員会において指摘している事項の対応状況について」

・やまぐち母子健康サポートセンター

「取り組み内容等について」

### 3 視察目的

ICT機器を利用した授業内容やエアコン整備工事の進捗状況等、教育民生委員会所管施設における現状及び課題を把握することを目的とする。

### 4 調査概要

○二島小学校、阿知須小学校

（概要）

二島小学校及び阿知須小学校ともに校長先生から各学校での特色ある取組等について説明を受けました。二島小学校については、1年生から6年生までの各教室を移動しながらICT機器を活用した授業風景等を確認しました。

また、阿知須小学校については、4年生から6年生の各教室を移動し、ICT機器を活用した授業風景やリースエアコンの設置状況や利用状況の確認、PFI

事業によるエアコン整備の進捗状況等について確認しました。

(おもな所感)

- ・電子黒板及びタブレット端末を活用することにより、教員と児童が常に向き合っ  
てコミュニケーションがとれており、導入の効果がみられた。
- ・児童同士、教員と児童の考え方、思考過程がリアルタイムに共有されていること  
が確認できた。
- ・カメラ機能の活用により、図面作成など図画工作における感受性の向上が図られ  
ていると感じた。
- ・教員もプログラミング学習など、論理的思考の指導のあり方を民間の力を借りな  
がら研鑽を積む時間の確保に努められているが、ICTを活用した授業は教員の  
負担軽減にも繋がっていくものと感じた。
- ・小規模校においても、児童数は少ないが他の学校と変わらない最先端の学びが導  
入されていた。
- ・積極的に電子黒板とタブレット端末をリンクさせた高度な授業展開をされている  
ことが確認できた。
- ・タブレット端末を活用して児童自らが検索し、電子黒板を用いてプレゼンして発  
表しており、コンピュータならではの効果的な活用方法がとられていることに感  
心した。
- ・タブレット端末を活用したオンライン学習・授業はコロナ禍における学びの保障  
にも貢献すると同時に、働き方改革における教員の負担軽減にも繋がるのではな  
いかと感じた。
- ・授業の準備時間も減り、資料の共有も教員同士で出来、また授業中も板書の時間  
が減ったので時間の有効活用を図ることができるとのことであった。ICT機器  
は意義のあるものであると認識した。
- ・タブレット端末等の使い方を模索している中においても、しっかりとした利活用  
の取り組みが出来ていると感じた。また、児童がタブレット端末を持って校内を  
散策しているときの表情は生き生きとしているように感じた。
- ・電子黒板に集中することにより、授業への集中が図られていると感じた。
- ・電子黒板やタブレットを活用して、児童の興味心を喚んだり、機能を活用した新  
たな学習など、授業の工夫が随所に確認できた。
- ・以前は児童用に紙資料や大書き資料等を作っておられたが、タブレット端末と電

子黒板の活用により、授業準備時間が大幅に短縮でき、また教員間での資料の共有も可能になったことから働き方改革（教員の負担軽減）にも繋がっていることが確認できた。

- ・タブレット端末等を活用することにより、本人の感覚を教員や他の児童も理解出来るのではないかと感じた。
- ・全体的に児童が教員と電子黒板に集中する様子が伺えた。また、ほぼ全員と言ってよいほど授業を楽しみながら学んでいる様子が伺えた。
- ・電子黒板と机の角度により、児童が体をひねったり、肘をついたりする場面が見られた。
- ・ICT機器の導入について、一連の流れの中でどんどん進んでいるように感じられ、子供たちの頭の中に残っているのか少し不安に感じた。
- ・タブレットの操作に集中するあまり、首が垂れ背中が丸くなる状況が見受けられた。
- ・コロナ禍で夏休みが短縮され暑い中での授業を余儀なくされているが、エアコンが無い中での授業は考えられず、リース契約によるものも含め、適切な対応であったと認識した。
- ・リース契約のエアコンは室外機も含め、スペースを占有してしまうことから、本来のエアコン設置事業に早期に着手できるように業者との連携を望む。
- ・授業に影響を及ぼさないように、工事スケジュールを学校と業者が調整しながら児童のいない時間内に設置されるなど配慮されていた。
- ・温度設定の限度設定をせず、現場の状況に応じて活用できるように設定していることは評価できる。
- ・エアコンを活用しながら授業が受けやすい環境を作っておられるが、窓を開けながらの利用で大変そうにも感じた。





## ○阿東保健センター、アカシア工房

### (概要)

阿東保健センター所長からセンター内（増築部分）の各スペースについての利用状況等、及び既存の阿東保健センターの施設内についても確認しました。

また、保健センター及びアカシア工房について、委員会において指摘している事項について、その後の対応状況についての確認を行いました。併せて、アカシア工房での作業状況等についても説明を受けました。

### (おもな所感)

- ・保健センター主催の健康講座受講者が自主的に健康器具を利用し、プログラムを実践されており、講座の成果があらわれてきているように感じた。
- ・世代間交流や健康増進スペースを活用したプログラミングを思考できるようになっていた。

- ・健康増進スペースについては、講習を受けないと利用できないとのことであり、利用者の固定化が進むのではないかと感じた。
- ・開館時間が8時30分から17時15分までであり、仕事をされている方は基本的に利用できないため、建設当時の考え方に立ち返る必要性を感じた。
- ・従来の阿東保健センターにも多目的トイレがあり、増設された施設内の多目的トイレについては左右対称となる設置ができなかったのかと感じた。
- ・バリアフリーで施設内も明るいため、住民の方も訪れやすいと感じた。地域行事の拠点として、利用率の向上を望む。
- ・指摘事項については対応がされており、今後は施設の利活用を十分に検討していかれることを期待する。
- ・保健センターおよびアカシア工房の指摘事項について、改善等対応されていることが確認でき、実際に働いておられる方が楽しそうに作業をされていた。
- ・アカシア工房の搬出する場所の変更については対応されていたが、急な変更のように感じられ、設計段階における精査が必要だと感じた。
- ・屋外階段の花壇部分の手すり、荷受け室のプラットフォームの改善等について、対応されていることが確認できた。



## ○やまぐち母子健康サポートセンター

### (概要)

視察当日は1歳6か月児の集団健診の実施日でもあるということで、新しい生活様式に対応した受診状況についての確認をしました。また、やまぐち母子健康サポートセンター内の見学や、センターの位置付け、開設目的、職員体制、相談実績、山口市における妊娠・出産・子育て期にわたる相談・支援体制等の説明を受けました。

### (おもな所感)

- ・本来は気軽に相談に訪れることができる空間であるが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により予約制での対応としている。その中で、相談延べ件数は増加しており、センターの重要性を認識した。
- ・専任スタッフを増員し相談体制、支援体制の充実・強化を図っておられることが確認できた。
- ・アウトリーチ機能、保健医療機関や福祉関係機関、行政他分野との連携、マネジメントも担っていることを確認した。
- ・子どもの発達に関する問題や妊娠中からの精神的な課題、育児不安やDV・ネグレクト等にも対応されており、必要に応じて児童センター等の関係機関とも連携されていることが確認できた。
- ・子どもを取り巻く相談内容も多様化・複雑化しており、センターの果たす役割の大きさを理解した。
- ・スマート自治体が推進される中においても、このような分野はまだ人が対応しなければロボットやコンピュータ等ではうまくいかない世界であると感じた。
- ・悩みを抱える母親も多く、医療機関等とも連携して活動されており、積極的に取り組まれていると感じた。
- ・コロナ対策を考えながらの現状の取り組みは大変だと感じたが、知恵を絞りながら施設運営をしていただきたい。
- ・地域担当が外に出ていき非常に良い活動をされており、引き続き、切れ目のない相談事業を展開していただきたい。
- ・コロナ禍の下での1歳6か月検診日であったが、会場はソーシャルディスタンスがとられた椅子の配置、床には距離を保つためのユニークな目印など、様々な感染防止策が講じられていることが確認できた。



- ・多くの母子が入り出される施設として、様々な感染拡大防止策の取り組みをされていることをよく理解できた。
- ・開設当時と施設内が変更されていないように感じたため、現状に合った施設の改修等も必要ではないかと感じた。
- ・施設内が少し暗かったので、もう少し明るければ良いと感じた。

